

# 緑のまち



編集「緑のまちフレンズ」  
市川市北国分 4-8-6 佐々木方  
TEL 047-371-9528  
<http://midori.kuuki.info>  
[ishitaka6648@gmail.com](mailto:ishitaka6648@gmail.com)

——☆☆☆☆——

第128号 2019. 11. 15発行

## 外環で変貌したまち

高柳俊暢

外環道路が供用開始されてから1年5ヶ月が経過した。外環道路周辺の変貌は著しい。私は反対運動の中で道路沿道の地域を頻繁に行き来し、地域の様子は熟知していたつもりだが、今、外環道沿いに自転車で移動すると「ここは一体どのあたりだったのか？」と、以前の街並みを思い出すことすら難しい。昨年6月の供用開始時点では、多くの地域でほとんど手がついていなかった歩道や自転車道の整備がようやく進んできたようだが、そこを利用する住民を見かけることは極めてまれである。一方、交差点で外環を渡ろうとすれば、赤信号で長く待たされた上、青に変わって渡れる時間はごく短い(40秒だという)。場所によっては「歩行者は青信号2回で渡るように」と書かれた看板が、わざわざ置かれている横断歩道さえある。着工前は「緑の道・外環」「緑の南北幹線軸」と、まるで道路が緑で覆うような宣伝をしていたが、出来た道路は大違いで、植栽はまばらで、市内中心部の5キロ近くの区間は将来、植栽する計画もなさそうに見える。今の外環はクルマの排ガスの熱に加え、幅広いコンクリートからの照り返しで、「高熱道路」と呼んでも良い状況だ。「こんな町にだれがしたのか」と叫びたい心境である。

「外環が出来て便利になった」という声は聴く、しかし「便利になった」という意味は、市内10キロ余りの道を「これまでより何分か早く通過できる」ということに過ぎない。毎日、しかもほとんど1日中、深刻な地域分断や環境の悪化を我慢しなければならない周辺住民の苦痛を思うことなく、「便利になった」と喜ぶべきではないだろう。(次頁に続く)



中国分5丁目  
崖下と外環沿道  
間道免きにできた  
大型物流車庫



# 3500戸が立ち退かされた外環道路

供用開始から約1年半、外環道路は私たちに様々な影響をもたらし始めました。48年前住民は「環境を保全し健康に暮らしたい」という素朴な願いから、反対運動に立ち上がりました。

## 住民の知らないところで決められた巨大な高速道路計画

外環道路計画は1969年（S44）都市計画決定されましたが、大正時代の「旧法」により住民説明会や公聴会は無く、計画立案に際し、環境に配慮するという考え方は全くありませんでした。

その結果住宅密集地に高架式二階構造の巨大な高速道路を縦断させる計画が、住民の全く知らないまま決められてしまいました。

## 住民が自治体を動かし、自治体ぐるみの反対運動

**1971年（S46）～1987年（S62）**

住民は1970年（S45）の年末、初めて道路計画を知り、驚くとともに、生活環境を守るために「外環連合」を結成し反対運動に立ち上がりました。住民運動が市議会・県議会を動かし、16年間自治体ぐるみの反対運動が展開されました。

## 国は高速部の半地下案を提示

1987年（S62）国は高速部の半地下案を提示。1993年（H5）市川市は受け入れを回答。1996年（H8）半地下構造変更案が都市決定されました。

2007年（H19）住民は公害調停を千葉県公害審査会に申し立てました。その運動は2011年（H23）まで続きました。

## 外環運動のシンボル小塚山市民の森

「小塚山市民の森」が外環建設のために壊されることを知ったのは27年前（1992年）のことでした。そこは風致地区で緑があふれ、貴重な遺跡があり、多くの生きものたちが息づき、人々も暮らしているかけがえのない豊かな森です。

この森を住民の力で守りたいと、「森の音楽会」や「バードウォッチング」を開催。止むに止まれぬ思いから歌も生まれ、「緑のまち合唱団」が誕生しました。

工事は開削工法からトンネル工法に変更。森は縮小され、ほぼ自然の形で残りましたが、隣接の緑地は殆んど消滅してしまいました。

## 明日のまちづくりへ向かって

去る5月19日松戸市民サポートセンターで「外環連合」解散集会が開かれ、48年に及ぶ活動を締めくくりました。その日「緑のまち合唱団」は、外環運動の中で生まれた「八つの創作曲」を演奏し、歌の誕生にかかわり旅立たれた方々の思い出を語りました。又、熱い思いで23回開催された「森の音楽会」についても、会場にポスターを展示し振り返りました。

※ 外環連合・・・市川市・松戸市の外環道路計画沿線の住民でつくられた  
「外環道路対策協議会」の超党派の連合組織

結成1971年 解散2019年

(緑のまち編集部)

・・

## 緑のまち あれこれ

---

- 台風15号、19号は各地に甚大な被害をもたらしました。数十年に一度の大型台風の19号は東京の町田市辺りから松戸市辺りを抜けたようですが、都心部を通過する際は、少し勢力を弱めた為、運良く市川市北部は大きなダメージを逃れた様に思います。但し、線状降水帯での記録的大雨被害の房総地域、北関東、東北地方は、想像を超える被害を受けてしまいました。ハザードマップを理解し、日頃からどのように備えるべきか改めて痛感させられました。
- 革新懇通信198号転載の高柳さんの記事にあるとおり、小塚山公園交差点から少し南へ行った中国分との谷間に、既に大型貨物車の車庫が出来ています。外環沿道付近の変貌は既に始まっています。
- 道免き谷津にできる小塚山公園拡充計画の整備が開始されてもよい頃ですが、工事を開始する気配がありません。数年前のワークショップでは、いなりざく公園前の私有地を除外した計画でしたが、所有者と公園市有地とを交換する話合いが進められていたようで、工事開始が遅れているようです。計画では、来年には完成予定でしたが市のホームページには、「予定は変更になる場合があります。」とあるだけです。
- 10月1日より北西部コミュニティバスの実証実験運行がスタートしました。市の交通計画課や市川警察、京成バスとなんども協議を重ねた結果、運行ルートや運賃が決まったのですが、私たちの要望がなかなか通らず中途半端な形でスタートせざるを得ませんでした。とにかく早く運行させることを優先し、これから地域の皆さんでより良い、利用しやすい地域交通へと育てていただければと思います。値段が高いため利用者が少ない現状ですが、4月からの本格運行に向けてぜひ利用していただき、車内に設置しているアンケート用紙にご要望を書いていただきたいと思います。これから改善していくことができますので、このコミュニティバスが地域の皆様の足として愛されるようになっていくことを願っています。

---

■ 編集後記 ■ 「北国分外環対策協議会」は解散となりましたが、「緑のまちフレンドズ」として、引続き地域の皆様と様々な問題を取り上げえていければと考えています。市内北西部地域の皆様の御参加をお待ちしています。